

# 牛川小学校の ESD 活動

## <活動の概要>

- ・「自ら考え、他者と関わりながら考えたことを生かす『牛川っ子』の育成」をテーマに掲げている。ESDを「地域を愛し、地域の環境を守っていけるような持続可能な開発のための教育」と捉え、実践を通して、「地域のよさに気づき、地域を愛し、地域を誇りに思う子ども」を育成することを目標とした。
- ・①環境に関わる教育（地域の自然に触れ、大切にしようとする）、②防災・福祉に関わる教育（体験活動や調べ学習を通して、身近に存在する課題に気づき考える）、③地域に関する教育（地域のひと・もの・ことにふれ見直し大切にしようとする）などの実践を行った。

## ・活動の実際

### ①③環境・地域に関わる教育（地域のひと・もの・ことに触れ見直し大切にしようとする）（3年）（4年）

3年生は、「すてき発見！牛川ちょうさ隊」をテーマに、牛川校区のおすすめのスポットを調べる活動を行った。各学級で調査したい場所を考え、丸山薫とゆかりのある「正太寺」給食で出るソフト麺を製造している「志賀製麺所」、人気の食事処「十勝庵」、日本の科学メーカー売上1位の会社「三菱ケミカル」、県内で唯一、渡し船に乗船できる「牛川の渡し」などに決めた。子どもたちは、見学したり体験したりする中で、たくさんの発見をした。

また、そこで働く人のお客さんへのおもてなしの工夫や、地域を大切に思う心にも触れたことで、地域への関心を高め、地域を愛する心を育んだ。

4年生は、「進め！朝倉川調査隊」をテーマに、朝倉川の水質検査や生き物調査を行い、生き物がたくさんいること、多くの人に関わっていてとても大切にされている川だと気づいた。また、昔の朝倉川はホテルが住めるくらいきれいだったことがわかった。しかし、ホテルは地球温暖化の影響で、減ってしまう現状も知った。そのことを知り、「ぼくたち、私たちの手でできることをしたい」と、校区への愛着を深めながら、環境問題への関心をより一層高めた。



3年 牛川の渡しでの渡船体験

### ②防災・福祉に関わる教育（体験活動や調べ学習を通して身近に存在する課題に気づく）（5年）（6年）

5年生は、「こちら牛川防災危機管理室」をテーマに、過去の地震や南海トラフ地震について調べたり、防災講話等を聞いたりして、命を守るために必要な備えや「自助」「共助」の大切さに気づいた。少しでも多くの人々の命を守るために今の自分にできることを実践しようという意識を高めた。

6年生は、「ともに生きる」をテーマに、福祉に関わる学習を行った。校区にある「さわらび荘」を訪問して高齢者と交流したり、アイマスクで視覚障害者体験をしたりした。学習を進める中で、人それぞれの違いを受け入れ、互いに支え合う社会の大切さを教わった。さらに、誰もが安心して住みやすい「うしかわの未来」について自分たちにできることを考えることで、主体的な社会参画への意識を高めた。



6年 さわらび荘でのふれあい